

令和4年度 小学校家庭科研究計画

茨城県教育研究会 家庭、技術・家庭教育研究部

1 研究主題

「生活をよりよくしようと自ら工夫する子の育成

～家族や地域の人々とのつながりを大切にし、実践力を高める家庭科学習～」

2 研究主題設定の理由

令和2年4月より、新しい学習指導要領が全面実施となった。それは、加速度的に変化する社会への対応だけでなく、変化を乗り越え、新たな価値を創造できる力を育むとともに、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることを目指した内容となっている。その趣旨を受け、上記の研究主題のもと深めてきた本県の研究は、「第36回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会茨城大会」において、県内の全小学校及び関東甲信越ブロックに対し、紙上にて発表した。また、昨年度の「第58回全国小学校家庭科教育研究会全国大会宮城大会」においても、研究の内容とその成果をオンラインで発表することができた。

そこで、本年度は、前年度までの研究を踏まえ、授業実践とその評価に重点を置いて研究をより一層深められるようにする。日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うための主体的な学びを充実させる。さらに、友達との協働や対話から互いの考えを深めたり、家族や地域の人々との関わりから自分の考えを広げ深めたりしながらよりよい生活を工夫することができる深い学びの実現を目指して研究を進めていく。なお、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、「生活の営みに係る見方・考え方」である「家族や地域の人々との協力」、「健康・快適・安全」、「生活文化の大切さに気付くこと」及び「持続可能な社会の構築」の視点を十分に働かせることで、より質の高い深い学びにつなげるようにする。

また、人と人とのつながりが難しいコロナ禍の今だからこそ求められる家庭科教育の在り方や、感染防止対策を十分に考慮した実習の進め方など、目の前の大きな課題の具体的な解決策についても探っていきたい。

【研究主題】

生活をよりよくしようと自ら工夫する子の育成

～家族や地域の人々とのつながりを大切に、実践力を高める家庭科学習～

【目指す児童像】

日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている子

日常生活の中から課題を設定し、学んだことを活用して解決できる子

家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

【研究の内容】

<視点1>

指導計画の工夫

- 実践力を高める年間指導計画の見直し
- つながり重視した題材指導計画の工夫
- 目指す児童の姿を明確にした題材構成図の活用

<視点2>

学習指導の充実

- 実践的・体験的な活動の充実
- 問題解決的な学習の充実
- ICTの効果的な活用

<視点3>

評価の工夫

- 身に付いた資質・能力を見取るための評価
- 一人一台端末を活用した評価
(デジタルポートフォリオなど)

手立て

実践につなげるための家庭・地域との連携

4 研究の方法

○各ブロック重点研究のポイント

- ・視点2：ICTの効果的な活用
- ・視点3：一人一台端末を活用した評価方法の工夫
- ・デジタルポートフォリオ等などの活用（資料添付）

中央： }
県北： } 内容A・B・Cを各ブロックで選択する。
県東： } 共同で指導案を立案し、各学校（推進委員）で実践する。
県西： }

県南：令和5年度・・・授業研究発表会の開催 ※開催方法を検討（新型コロナ感染状況に応じて）

- ・各校で研究した内容は、ブロック長（推進委員）がレポートを4ページに集約しまとめ、ブロック長（校長）に起案したものを小学校事務局（笠原小 寺門）へメールで提出する。

提出期限：令和5年1月6日(金)まで

○その他の研究の施策

- ① 郡市単位で開催される実技研修会への参加
- ② 「いばらきものづくりフェア」や郡市単位で開催の作品展への参加
- ③ 第59回全国小学校家庭科研究大会全国大会京都大会への参加 11/11
第38回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会群馬大会への参加 11/25
- ④ その他